

若 樹

杉並区立東田中学校

技術の進歩が生み出す新たな問題 校長 坂本 聖二

7月になり1学期も終わりが近づいてきました。1学期は運動会などの大きな行事も大成功で終わり、生徒たちも明るく元気に学校生活を送ることができました。この間、地域や保護者の皆様に様々な面でご支援やご協力をいただき誠にありがとうございました。2学期以降もよろしく願いいたします。

さて、現在世の中で大きな話題となっていることの一つに、「学校教育における生成AIの活用」というものがあります。生成AIとはChatGPTなどのようにインターネット上にある様々なデータをもとに文書や絵の作成、質問に対する回答などを行ってくれる最新の技術です。しかし、生成AIを学校現場で使用するうえでは様々な問題を抱えており、先日文部科学省がガイドラインを発表しました。以下、文部科学省のガイドラインの一部を掲載します。

(2) 生成AI活用の適否に関する暫定的な考え方

- 子供の発達の段階や実態を踏まえ、年齢制限・保護者同意等の利用規約の遵守を前提に、教育活動や学習評価の目的を達成する上で、生成AIの利用が効果的か否かで判断することを基本とする（特に小学校段階の児童に利用させることには慎重な対応を取る必要がある）。
- まずは、生成AIへの懸念に十分な対策を講じられる学校でパイロット的に取り組むことが適当。

利用規約：ChatGPT…13歳以上、18歳未満は保護者同意 Bing Chat…成年、未成年は保護者同意 Bard…18歳以上

1. 適切でないと考えられる例

※ あくまでも例示であり、個別具体的に照らして判断する必要がある

- ① 生成AI自体の性質やメリット・デメリットに関する学習を十分に行っていないなど、情報モラルを含む情報活用能力が十分育成されていない段階において、自由に使用させること
- ② 各種コンクールの作品やレポート・小論文などについて、生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として応募・提出すること（コンクールへの応募を推奨する場合は応募要項等を踏まえた十分な指導が必要）
- ③ 詩や俳句の創作、音楽・美術等の表現・鑑賞など子供の感性や独創性を発揮させたい場面、初発の感想を求める場面などで最初から安易に使わせること
- ④ テーマに基づき調べる場面などで、教科書等の質の担保された教材を用いる前に安易に使わせること
- ⑤ 教師が正確な知識に基づきコメント・評価すべき場面で、教師の代わりに生成AIから生徒に対し回答させること
- ⑥ 定期考査や小テストなどで子供達に使わせること（学習の進捗や成果を把握・評価するという目的に合致しない。CBTで行う場合も、フィルタリング等により、生成AIが使用しうる状態とならないよう十分注意すべき）
- ⑦ 児童生徒の学習評価を、教師がAIからの出力のみをもって行うこと
- ⑧ 教師が専門性を発揮し、人間的な触れ合いの中で行うべき教育指導を実施せずに、安易に生成AIに相談させること

2. 活用が考えられる例

※ あくまでも例示であり、個別具体的に照らして判断する必要がある

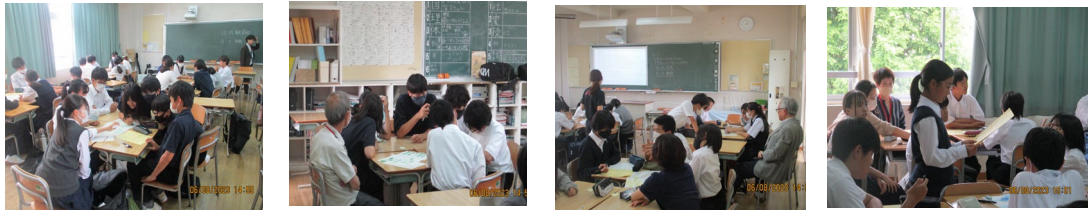
- ① 情報モラル教育の一環として、教師が生成AIが生成する誤りを含む回答を教材として使用し、その性質や限界等を生徒に気付かせること。
- ② 生成AIをめぐる社会的論議について生徒自身が主体的に考え、議論する過程で、その素材として活用させること
- ③ グループの考えをまとめたり、アイデアを出す活動の途中段階で、生徒同士で一定の議論やまとめをした上で、足りない視点を見つけ議論を深める目的で活用させること
- ④ 英会話の相手として活用したり、より自然な英語表現への改善や一人一人の興味関心に応じた単語リストや例文リストの作成に活用させること、外国人児童生徒等の日本語学習のために活用させること
- ⑤ 生成AIの活用方法を学ぶ目的で、自ら作った文章を生成AIに修正させたものを「たたき台」として、自分なりに何度も推敲して、より良い文章として修正した過程・結果をワープロソフトの校閲機能を使って提出させること
- ⑥ 発展的な学習として、生成AIを用いた高度なプログラミングを行わせること
- ⑦ 生成AIを活用した問題発見・課題解決能力を積極的に評価する観点からパフォーマンステストを行うこと

5/24

生成AIは確かに便利ですが、「技術の進歩＝人類の進歩」かと言われると、私は何となく違うのではないかと感じています。一部の専門家の中には、正解を出すようなものはAIに任せ、人間は正解のないものを考えればよいという人もいますが、正解のないもの考えるためでも知識や技能が必要であり、数学の問題を解くような論理的思考や判断力も必要になってくると思います。これについて皆さんはいかがお考えでしょうか。私は科学技術の進歩が逆に人間を後退させているのではないかと感じている今日この頃です。

地域懇談会

6月8日(木)、地域懇談会を実施しました。「災害時に中学生として地域のためにできることは何か」のテーマのもと、各班で意見交換しました。CS委員の方や保護者の方にも班に入ってください、討議を見守っていただきました。



1年生の班には、上級生がはいり、とても上手に議論を進めていました。1年生は、先輩の頼もしさを実感しました。

職場体験（2年生）

6月28日(水)～30日(金)「職場体験」が実施されました。短い期間でしたが、普段はできない貴重な体験となりました。この体験を通じて、どのようなことを感じたでしょうか。お世話になった事業所の方々への感謝の気持ちを持ち、今後の生活も頑張ってほしいと思います。



杉並区中学生レスキュー隊発足式及び合同訓練

7月2日(日)杉並区中学生レスキュー隊発足式及び合同訓練が実施されました。本校からは、7名がレスキュー隊員となり、当日は、4名が参加しました。人のために何ができるか考え、訓練を受ける姿は、とても立派でした。

